令和 7 年度学校関係者評価協議会報告書

学校法人東洋学園

東洋学園高等専修学校

東洋学園高等専修学校は、下記日時に『学校関係者評価協議会』を開催いたしました。協議会では、協議・意見交流を行ない以下の意見と評価がありました事を報告いたします。今後は、この意見等を受け止め改善に努めてまいります。

1. 名　　称　東洋学園高等専修学校　学校関係者評価協議会
2. 目　　的
   - 学校教育自己診断アンケート調査結果の客観性・透明性を高める。
   - 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たる。
3. 日　　時　令和 8 年 10 月 5 日（月）17：30～18：30
4. 場　　所　東洋学園高等専修学校　102 教室
5. 委 員 一 覧

	所　　属	役　職　等
1	大阪市立小学校	校　　長
2	大阪市立中学校	校　　長
3	長尾谷高等学校	教　　頭
4	関西福祉科学大学	准　教　授
5	大阪国際大学	入試・広報部 課　　長
6	森小路　京かい道商店会	会　　長
7	株式会社　アワヤ	取　締　役
8	東洋学園同窓会	会　　長

6. 議　　案

1. 報告・協議

① 学校概要について　（生徒就学状況等）

② 生徒指導・教務・進路指導　各部より報告

③ 令和 7 年度学校教育自己診断アンケート結果報告

④ 意見交流

7. 議　　事

1. 報告・協議

① 教頭から本校教育活動概要、各学年在籍者数の報告。1 年 56 名、2 年 61 名、3 年 47 名、全学年 164 名　男子生徒 66 名、女子生徒 98 名。1 年生入学者数が前年度比 19 名の増加となった。

② 生徒指導部長から、令和 7 年度生徒指導規定による処分件数と内容について報告。地域と連携した行事の取り組みについて報告。生徒の傾向と状況説明では、家庭環境、外国籍生徒の状況報告。

教務部長から、生徒のコース選択状況などを報告。また、不登校・長期欠席生徒への支援の取組と概要を説明。教員の授業力向上の為、授業力向上委員会の設置とその目的、取り組み内容を報告。

進路指導部長から、令和 7 年度の進路報告と今年度の進学・就職共に試験がスタートした旨と、令和 7 年度卒業生の進学先・就職先の報告。令和 7 年度中の合計求人企業数と求人数、進路指導部としての年間計画と各学年における設定目標などを報告。

③ 令和 7 年度学校教育自己診断アンケート分析結果報告（教頭）

生徒アンケートからの分析

(ア) 項目 1～4（授業・学校生活）

① 学校生活全般において肯定的な意見が全体で 8 割以上を占めており、生徒は概ね楽しく学校生活を過ごせていることが読み取れる。ただし、2 割は学校生活において楽しみを見いだせていない、または感じていないことにも留意する必要がある。

② 専門教育に関する項目においても 9 割が肯定的である。生徒の学習意欲と各コースの教育内容が合致し、特色ある教育が展開されている結果といえる。

(イ) 項目 5～8（生徒理解）

① 各項目において、8 割以上が肯定的な評価をしており、教員と生徒の関係性において、概ね適切な関係の構築が出来ていると推察される。しか

し、学年が上がるにつれて、「D」評価が増加する傾向があることも見逃せない。

(ウ) 項目 9（進路）

① 進路指導面について 9 割以上の生徒が肯定的に捉えている。近年の進路決定状況を鑑みても、自らの将来を早い段階から真剣に考え進路実現に向かう生徒が多い。昨年度卒業生の就職・進学希望者はそれぞれの希望する進路に進むことができたが、第一志望に進めなかった生徒が若干名いた。このことが 3 年生において「D」評価に 1 割程度回答されている一因かと考える。

(エ) 項目 10～11（人権・公共性）

① 人権教育においても、1 年生から段階的に教育計画を実行しており、9 割以上の生徒が人権について学び・考える機会を肯定的に捉えている。全ての生徒において適切な人権感覚と、公共性を身につけていくことが今後も重要である。またこの項目においても、学年が上がるにつれて「D」評価が増加する傾向にあるため、次年度以降も数値には注視していく。

(オ) 項目 12～14（行事・学校設備等）

① 年間を通して行われる行事について肯定的な意見が 9 割を超えている。現状に拘泥することなく、中身の充実に重きをおき、生徒が「楽しい」と感じられる行事の充実を図る。

② 学校全体に関しての評価として、「私はこの学校で学ぶことができて良かった」という質問項目において 8 割以上の生徒が肯定的である。しかしながら 1 割強の生徒が否定的である事実から、どのような観点から否定的な意見が出ているのかをさらに分析し改善する必要がある。

(カ) 項目 15（全体的評価）

① 肯定的評価が 8 割強という結果から、多く生徒は本校での教育・学習内容に好意的である。その一方で、2 年・3 年の「D」評価が共に 1 割強であることも看過できない。学習内容・教職員・学校生活全般において、もう一度教員間で現状を精査し、一人でも多くの生徒が本校に入学したことを後悔しないような学校運営を心掛ける。

(キ) 令和 5 年度入学生の経年結果について

① 経年変化から見えてきた事実としては、2 年目に様々な指標の評価で否定的な意見が 3 割程度に増加することが多く、3 年目の卒業学年においては大幅に改善する。また、本校で学ぶことが出来て良かったなどの項目も肯定的意見が大きくなる一方、否定的意見が多くなることにも注目した。これについては進路結果として実現できた生徒とそうではない生徒の割合と非常に近接しており、生徒の進路実現を重視し学校運営を行っていく。

保護者アンケートからの分析

(ク) 項目 1～4（授業・学校生活・資格試験・評価）

① 子どもの登校や授業については 8 割以上の保護者が肯定的評価をしている。これは、生徒が安定して登校できていることの表れであり、家庭の協力と学校環境への信頼の結果と受け止められる。この結果に満足することなく、全教員が共通の意識を持ち、生徒が登校したいと思うような環境を整備する必要がある。

② 資格試験における肯定的な評価については 2 割強が否定的な回答となっている。否定的な回答の背景には、資格試験の合否も直結していると考える。コース選択が 2 年からであり、本格的な資格取得が 2 年からとなっている。資格試験を受験したとしても合格に至らないケースもあり、3 年生でも資格の取得に結びつかないケースもあることからこのような結果になっていると推測する。合格率の上昇に向けては特別対策講座を実施するなどしているが、講習の参加も任意となっており、今後は実施形態の見直しを含めた検討が必要である。

(ケ) 項目 5～8（生徒理解・情報提供）

① 全般的に 8～9 割の肯定的評価を得ている。これについては本校の実践する「ひとりひとりを大切に」という目標と取組がある程度実を結んでいる。情報の提供方法については google classroom をさらに有効活用していく余地があり、改善の余地はある。

(コ) 項目 9（進路）

① 進路指導ついて、約 9 割の肯定的な評価を得ており、引き続き卒業時点での進路決定がなされるようにする。

② 2 年生保護者からの「C」評価が 1 割強あることに関しては、進路に関する情報提供機会を増加させ、早めの進路決定活動につなげることで解消を狙う。

(サ) 項目 10～12（進路指導・学校方針）

① 概ね 9 割弱の肯定的な評価を得ている。これに慢心することなく、日々の教育活動においても的確な対応で保護者にとって安心できる学校環境の整備に引き続き努める。

教職員アンケートからの分析

(シ) 項目 1～20（教育活動・学校運営）

① 概ね肯定的で前向きな評価がされている。教員が意欲的に様々な物事について考え、生徒の成長につながる取り組みを行っていると考える。しかし、現状に満足・拘泥することなく常に改善策などを考え、生徒にとって最適な環境を提供できるようにする。

② 生徒への指導に関して、「カウンセリングマインドを取り入れている」という項目で「C」評価が 2 割あった。この結果は、教員個々の指導方針に差異があることを示唆している。指導における『あるべき姿』を共有するため、分掌の垣根を越えた協議の場を設ける必要がある。

④　意見交流

(ア) 経変変化の資料がおもしろい結果となっている。最終的な満足度が高いことは、教育内容等も含めて良い方向に向いていると感じる。今後は生徒だけでなく、保護者や教員の経年変化もみてみたい。

(イ) 生徒の高評価項目と・保護者の高評価項目が連動しており、生徒・保護者共に同じ視点で学校での活動を評価しているのがよくわかる。

(ウ) 生徒アンケートで学年が上がると、項目 1、項目 15 のポイントが下がる点が気になる。

(エ) 特色ある教育に関しては、生徒・保護者ともに高評価であることから、求められるニーズに応えられているという評価になる。今後も、他にはない教育活動を続けていってほしい。